

令和2年(2020年) プレス災害発生状況

令和3年(2021年)2月末現在

1. 地区別

	20年～24年	25年～29年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	合計	比率
燕地区	70	53	8	17	12	0	0	37	62.7%
燕	55	32	6	9	8			23	39.0%
(吉田)	13	16	2	5	2			9	15.3%
(分水)	1	23	0	1				1	1.7%
弥彦	1	3	0	2	2			4	6.8%
三条地区	39	19	5	6	5	0	0	16	27.1%
三条	29	11	5	6	5			16	27.1%
(栄)	7	6	0					0	0.0%
(下田)	3	2	0					0	0.0%
加茂地区	4	5	1	3	1	0	0	5	8.5%
加茂	3	3	0	2				2	3.4%
田上	1	2	1	1	1			3	5.1%
見附地区	1	0	0	1				1	1.7%
合計	114	77	14	27	18	0	0	59	100.0%
基準数									
目標									
減少率									

2. 事業場規模別

	20年～24年	25年～29年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	合計	比率
1～9人	38	33	9	7	6			22	37.3%
10～29人	44	24	4	13	11			28	47.5%
30～49人	13	6	1	1				2	3.4%
50人以上	19	14	0	6	1			7	11.9%
合計	114	77	14	27	18	0	0	59	100.0%

3. プレス機械の種類等

種類	20年～24年	25年～29年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	合計	比率
ポジティブクラッチ	44	26	5	5	6			16	27.6%
フリクションクラッチ	46	35	7	14	10			31	53.4%
液圧プレス	9	5	1					1	1.7%
プレスブレーキ	12	9	1	6	1			8	13.8%
その他のプレス	3	2	0	2				2	3.4%
合計	114	77	14	27	17	0	0	58	100.0%
起動方式									比率
両手操作	11	8	1	2	2			5	8.5%
片手操作	4	1	1	1				2	3.4%
足踏み操作	97	67	12	23	16			51	86.4%
その他	2	1	0	1				1	1.7%
合計	114	77	14	27	18	0	0	59	100.0%

4. 安全措置状況

	20年～24年	25年～29年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	合計	比率	
(状態として)安全措置あり	安衛則第131条第1項措置	24	10	2	3	0	0	5	6.4%	
	安全囲い	13	6	2	1			3	3.8%	
	安全金型							0	0.0%	
	専用プレス				1			1	1.3%	
	自動プレス	5	1		1			1	1.3%	
	安全プレス	6	3					0	0.0%	
	安衛則第131条第2項措置	61	46	14	27	22	0	0	63	80.8%
	ガード式	3	1		1			1	1.3%	
	両手操作式(FC)	2	2	6	9	4		19	24.4%	
	両手起動式(PC)	2	3			2		2	2.6%	
	光線式	34	35	6	14	10		30	38.5%	
	手引き式	4				1		1	1.3%	
	手払い式	11	3	1	1	3		5	6.4%	
	PSDI							0	0.0%	
	手工具	5	2	1	2	2		5	6.4%	
	安全措置なし	40	7	2	6	2		10	12.8%	
合計	125	63	18	36	24	0	0	78	100.0%	

注・1台に複数の安全装置がされている場合も含む。安全装置がしてあり、使用を怠った場合も「安全措置あり」に含む。

5. 作業の種類

	20年～24年	25年～29年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	合計
定常作業(抜き・切断・曲げ・絞り等)	89	63	11	24	17			52
非定常作業(金型取り外し等)	25	14	3	3	1			7

6. 災害発生原因

	20年～24年	25年～29年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	合計	比率
不安全的な状態	92	54	4	15	19			38	46.9%
安全装置なし	16	14	2	6	2			10	12.3%
プレス機械の故障等	1	3			1			1	1.2%
安全装置の故障	1	2			1			1	1.2%
安全装置の不備(調整不良)	25	18	1	4	6			11	13.6%
作業方法の欠陥	41	13	1	5	8			14	17.3%
その他	8	4			1			1	1.2%
不安全的な行動	90	47	14	12	17			43	53.1%
安全装置を無効にする	41	24	6	6	9			21	25.9%
安全装置の不履行	19	12	6	5	6			17	21.0%
その他(金型の取付・取外・調整を含む)	30	11	2	1	2			5	6.2%
合計	182	101	18	27	36			81	100.0%

(注) 不安全的な状態と行動は両方該当する場合も記入してある。(災害発生件数と一致しない。)

(注) ○印の数字は死亡者数を表す。

【プレス災害発生状況】(プレスの種類で、FCプレスは、フリクションクラッチプレス、PCはポジティブクラッチプレスと種類を略称している。)

- 1月 FCプレスを使って、製品の平打ち作業中、製品の位置を直そうとしたところ、フットスイッチを踏んでしまい、右手を挟まれ負傷した。光線式安全装置が備えられていたが無効にしていた。
- FCプレスを使って、製品の絞り加工中、製品を金型に置いた際、フットスイッチを踏んでしまい、右手を挟まれ負傷した。
- PCプレスを使って、製品のかしめ作業中、フットスイッチを踏んでしまい、右手を負傷した。手払い式安全装置が備えられていたが故障していた。
- FCプレスを使って、製品の曲げ加工中、製品の位置を直そうとしたところ、フットスイッチを踏んでしまい、右手を挟まれ負傷した。光線式安全装置が備えられていたが、無効にしていた。
- 5月 PCプレスを使って、製品の曲げ加工中、材料を通常とは異なる持ち方をして作業していたところ、右手の薬指の先を挟まれ負傷した。安全装置は何も備えられていなかった。
- 6月 FCプレスを使って、製品の抜き加工中、材料を取り出そうとしたところ、フットスイッチを踏んでしまい、右手を挟まれ負傷した。光線式安全装置が備えられていたが、防護範囲の調整に不備があった。
- 7月 FCプレスを使って、製品の抜き加工中、材料を取り出そうとしたところ、フットスイッチを踏んでしまい、左手を挟まれ負傷した。光線式安全装置が備えられていたが、防護範囲の調整に不備があった。
- 8月 PCプレスを使って、製品の曲げ加工中、材料を取り出そうとしたところ、プレスが二度落ちして、左手を挟まれ負傷した。手払い式安全装置が備えられていたが、手を払いきれなかった。
- プレスブレーキを使って、製品の曲げ加工中、製品の位置を直そうとしたところ、フットスイッチを踏んでしまい、右手を挟まれ負傷した。安全装置は何も備えられていなかった。
- FCプレスを使って、製品の抜き加工中、材料を取り出そうとしたところ、フットスイッチを踏んでしまい、左手を挟まれ負傷した。光線式安全装置が備えられていたが、無効にしていた。
- 10月 FCプレスを使って、製品の切断加工中、材料の位置を直そうとしたところ、フットスイッチを踏んでしまい、右手を挟まれ負傷した。光線式安全装置が備えられていたが、無効にしていた。
- PCプレスを使って、製品の曲げ加工中、作業台の上に積んでいた製品がプレスの起動ボタンを押してしまい、両手を挟まれ負傷した。手払い式安全装置が備えられていたが、手を払いきれなかった。
- FCプレスを使って、製品の抜き加工中、材料を取り出そうとしたところ、フットスイッチを踏んでしまい、左手を挟まれ負傷した。光線式安全装置が備えられていたが、防護範囲外から手を入れていた。
- 11月 FCプレスを使って、製品の穴あけ加工中、材料を金型に置いた際、手を引かないままフットスイッチを踏んでしまい、右手を挟まれ負傷した。光線式安全装置が備えられていたが、無効にしていた。
- FCプレスを使って、製品の抜き加工中、金型の高さ調整に使用していた板材が飛来して腹部に激突し、負傷した。指定されていた板材ではないものを使用していた。
- PCプレスで金型の調整中、下型を持ったまま寸動ボタンを押してしまい、下型とダイセットの間に左手を挟まれ負傷した。
- 12月 PCプレスを使って、製品の曲げ加工中、金型の上に手を置いたままフットスイッチを踏んでしまい、右手を挟まれ負傷した。手引き式安全装置が備えられていたが、使用していなかった。
- FCプレスを使って、製品の曲げ加工中、製品の位置を直そうとしたところ、フットスイッチを踏んでしまい、右手を挟まれ負傷した。光線式安全装置が備えられていたが、無効にしていた。